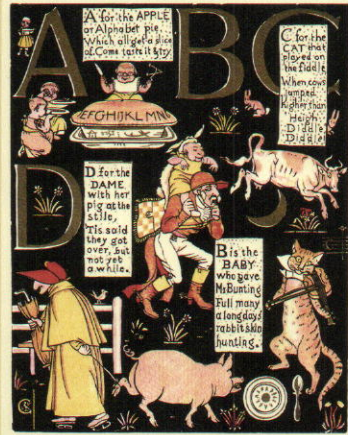
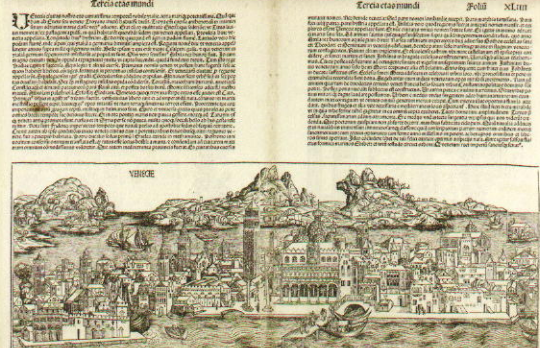
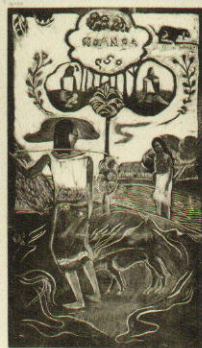


Woodcut Prints in Europe and America



西洋の木版画



500年の物語



ワットソン(大騒ぎ、あるいはカフェの情景) / ビューイック(チンパンハムの野生の中) / クレイン(へんてこABC) / リヴィエール(アブレネーの入江) / ゴーギャン(アノア(無人島)) / グリーン(クワイ) (聖の下) / シェーデル(年代記) / ニコルソン(アルファベット) / クレイン(クレインのめり入嵐島) / ドン(神曲地獄篇) / ドイル(紙の園で) / デューラー(開示録より(自らの騎者))

2020
9/26 | 土 | - **11/23** | 月 | 祝
 祝日をのぞく月曜休館

平日 10:00~17:00 / 土・日・祝日 10:00~17:30 / 入館は閉館30分前まで
 一般 800(600)円 / 大学・高校生 400(300)円 / 中学生以下無料
 ・()内は20名以上の団体料金 ・身体障がい者手帳または愛の手帳等をご提示の方と付き添いの方1名は半額

状況により、会期等を変更する場合があります。
 ご来場前に当館ホームページ・SNSでご確認ください。

町田市立国際版画美術館
 Machida City Museum of Graphic Arts

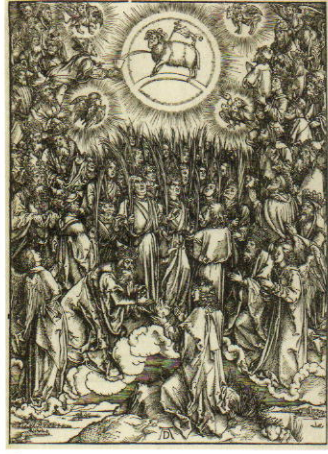
Woodcut Prints in Europe and America

西洋の木版画

500年の物語



1



2

ヨーロッパで木版画が作られるようになったのは西暦1400年ごろのこと。やがてグーテンベルクが活版印刷を発明すると、木版画は本のさし絵に広く用いられ発展していきました。15世紀末にはデューラーの登場により早くも最初の頂点をむかえますが、版画制作の中心が銅版画に移るにつれ、木版画は日常的な印刷物に細々と残るばかりになりました。

18世紀末に発明されたのが、ごく細かな線まで表現できる木口木版の技法です。19世紀には多色刷りの技術も開発され、カラフルで安価な絵本が人気を集めました。近代以降は日本の浮世絵をはじめとする異文化の影響を受け、木版画は芸術表現のひとつとして見直されるようになります。

西洋の木版画の特色をご紹介するこの展覧会は、15世紀から現代までの作品120点で構成されます。初期の素朴な作品、驚くほど緻密なデューラーの作品、木口木版による愛らしい絵本、現代作家による大型作品など、これまでの「木版画」のイメージをかえる多彩な作品をお楽しみください。

会期中に展示解説やコンサートなど関連催事を予定しております。最新情報は当館ホームページでご確認ください。



3



4

1. 木版本「貧者の聖書」より
1440年以前
2. アルブレヒト・デューラー
『黙示録』より「子羊の前の選ばれし者たち」
1498年刊
3. リチャード・ドイル
『妖精の国』より
1870年刊
4. ヴァシリイ・カンディンスキー
『響』より
1913年刊

新型コロナウイルス感染症拡大の状況によっては、会期等を変更する場合があります。ご来場前に当館ホームページ・SNSでご確認ください。

同時開催：ミニ企画展(常設展示室)

まちだゆかりの作家 若林 奮 9/16(水) - 12/23(水) 入場無料

東京都町田市原町田4-28-1 Tel. 042-726-2771/0860 お問合せ：町田市役所 代表電話：042-722-3111



マスク着用など、
咳エチケットにご協力ください。



小田急線・JR横浜線町田駅より徒歩15分

土・日・祝日には原町田大通りより無料送迎バス運行



<http://hanga-museum.jp/>



@machida_hanbi



@machida_hanbi

町田市立国際版画美術館

Machida City Museum of Graphic Arts